

斑点米カメムシ情報 第2号

平成21年7月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

7月上旬の巡回調査（県内105ほ場）では、水田周辺の畦畔における捕虫網20回振りによる斑点米カメムシ類の平均捕獲数は、ホソハリカメムシ 0.33頭（平成 0.32頭）、クモヘリカメムシ 0.05頭（平成 0.11頭）、シラホシカメムシ類 0.15頭（平成 0.17頭）、カスミカメムシ類 11.69頭（平成 2.24頭）となり、カスミカメムシ類が平成より多くなっています。また、昨年新たに確認されたミナミアオカメムシ（図）が、本年、弥富市、南知多町、岡崎市、西尾市、幡豆郡吉良町・一色町、豊川市、田原市の水田畦畔や休耕田等で、既に確認されています。ミナミアオカメムシは、他の斑点米カメムシに比べ体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるといわれており（表）、今後の発生動向に注意が必要です。



1 齢幼虫(0.5mm前後) 3 齢幼虫() (4 mm前後) 5 齢幼虫 (10mm前後) 成虫(15mm前後)
図 ミナミアオカメムシ
日本原色カメムシ図鑑より引用

表 カメムシの種別による斑点米発生能力（川澤ら、1975）

1 頭 1 日当たり 斑点米発生量（粒）	カメムシの種名	
0.51 ~ 1.00	ミナミアオカメムシ	エビイロカメムシ
	イネカメムシ	クロアシホソナガカメムシ
0.11 ~ 0.50	アオクサカメムシ	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ
	シラホシカメムシ	ヒゲナガカメムシ
	クモヘリカメムシ	アカヒゲホソミドリカスミカメ
	コバネヒョウタンナガカメムシ	ブチヒゲクロカスミカメ
0.06 ~ 0.10	トゲシラホシカメムシ	ホソハリカメムシ
	ハナダカカメムシ	ブチヒメヘリカメムシ
	ヒメハリカメムシ	アカスジカスミカメ
0.01 ~ 0.05	アカヒメヘリカメムシ	ハナグロミドリカスミカメ
	メダカナガカメムシ	

2 防除対策

斑点米カメムシ類は、水田周辺の畦畔や土手などに生えているイネ科雑草等で増殖するため、除草（草刈等）を徹底しましょう。ただし、出穂期間際の際の除草は斑点米カメムシ類を逆に水田に追い込むことになるので控えてください。周辺ほ場に比べ出穂の早いほ場では、斑点米カメムシ類の飛来が集中することがあるので、特に注意してください。出穂期に畦畔雑草や水田内でカメムシ類を確認したら、穂揃期に薬剤防除（斑点米カメムシ情報第1号参照）を実施し、その後も発生が多い場合は7～10日後に再度防除を実施して下さい。

ミナミアオカメムシの防除に際しては、ネオニコチノイド系の薬剤（スタークル粒剤、アルバリン粒剤、ダントツ粒剤等）が有効とされていることから、ほ場でミナミアオカメムシの発生を確認した場合は、これらの薬剤を用いて防除しましょう。